



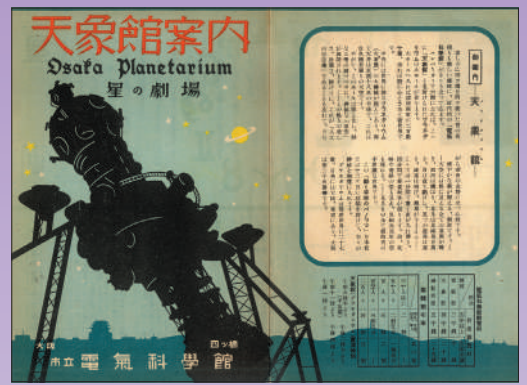
★ カールツァイス社製 星座絵投影機

プラネタリウムドームに星座の絵の線画を映し出すための投影機で、電気科学館時代に使われていたものです。解説スタッフが話をしながら操作して映し出していました。絵は交換式で、様々な絵が映せました。



★ 冊子『電気科学館建築記念』

1937(昭和12)年の電気科学館の開館時に、運営部署である大阪市電気局が発行した冊子です。建物やプラネタリウム、展示場、諸設備を写真で紹介するほか、館の建築概要や工費など、電気科学館のハード面を紹介した貴重な資料です。



★ てんしょうかん 天象館案内リーフレット

1939(昭和14)年頃に作られたプラネタリウムの解説リーフレットです。「天象館」はプラネタリウム施設の名称、その下にある「星の劇場」は愛称です。当時プラネタリウムを見た作家の織田作之助が、「星の劇場」という名の小品でその時の体験を著しています。



★ 電気科学館絵はがき

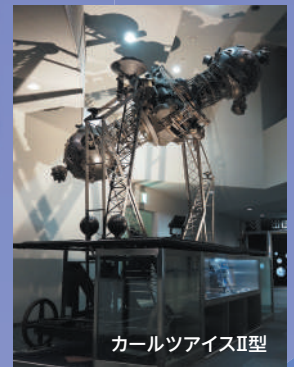
1937(昭和12)年の開館直後に作られた絵はがきです。来館記念のおみやげとして販売されました。建物外観やプラネタリウム、展示場など、電気科学館のみどころの写真が凝縮されています。

★ スペシャルナイト 「プラネタリウム100周年記念イベント」を開催!

10月21日は光学式プラネタリウムがドイツで登場してちょうど100周年の日です。

この記念すべき日に、ドイツや国内各地のプラネタリウムからの中継のほか、大阪で誕生した日本最初のプラネタリウムの話や昭和レトロ風解説を交えながら、プラネタリウムの100年をふりかえります。

- 日 時：10月21日(土)
18:30~20:00(18:00開場)
- 会 場：大阪市立科学館 プラネタリウム
- 定 員：250名(先着順)
- 参加費：1,000円
- 申込方法：以下のいずれかの方法で前売券をお求めください。
・観覧券のWeb販売サイト「Webket」にて
・大阪市立科学館チケットカウンターにて
- ★チケット販売：9月15日(金)10:00~ ※売り切れ次第販売を終了します。



カールツァイスII型



大阪市立自然史博物館

恐竜ステゴサウルスの骨格

当館で展示されているステゴサウルスの骨格は、アメリカ自然史博物館の標本を、現地の高校生らの協力を受けて型取りして作ったレプリカです。ステゴサウルスが生きていたのは中生代ジュラ紀、およそ1億5000万年前の北米大陸です。全長約9メートルで、背中に板、尾にトゲを持っていました。こう聞くと攻撃的な恐竜のように思えますが、実は植物食です。尾を振るとしなやかに体の横まで曲げることができ、肉食恐竜から身を守る時に使われていました。板の内部や側面には血管の跡があり、体温調節のために使われていたと考えられています。

大阪市立自然史博物館 学芸員 田中嘉寛

※ステゴサウルスの骨格は本館第2展示室で常設展示しています。また9月24日(日)まで開催中の特別展「恐竜博2023」では、ステゴサウルスの仲間の恐竜「ズール」をご覧になれます。最新情報はホームページにてご確認ください。

住所 〒546-0034大阪市東住吉区長居公園1-23 TEL 06-6697-6221 FAX 06-6697-6225
ホームページ <https://www.omnh.jp/> アクセス ●Osaka Metro御堂筋線「長居」3号出口・東へ約800m ●JR阪和線「長居」東出口・東へ約1000m



ステゴサウルスの骨格

大阪市立の博物館・美術館・動物園 **Osaka Museums** <https://museums.ocm.osaka>

- 大阪歴史博物館
- 大阪城天守閣
- 大阪市立自然史博物館
- 大阪市立美術館
- 大阪市立東洋陶磁美術館
- 大阪市文化財協会
- 大阪市立科学館
- 天王寺動物園
- 大阪中之島美術館
- 大阪くらしの今昔館